

# 中房総地域の鉄道沿線を活性化する「多世代向け屋外教育環境」の構築

## 現状とコンセプト



### 課題

- 小湊鉄道・いすみ鉄道の旅客減少（JR圏域から離れるほど顕著）
- 養老渓谷・大多喜周辺の観光資源は知名度が低く大量輸送に未対応



### 強み・ポテンシャル

- 都心からの好アクセスと豊かな自然環境の共存



ターゲット層：小学1年生から  
前期高齢者まで

鉄道沿線全体を「屋外教育」の巨大なキャンパスとして再定義する。

## 解決策：3つの機能的アプローチ



### 交通：アクセス環境の刷新

東京湾対岸から養老渓谷への「直通高速バス路線」を開業。最大のハードルである「乗り換え徒歩」を排除し、シームレスな移動体験を提供。



### 宿泊：シンボルとなる滞在拠点の創出

養老渓谷温泉街に「移」となる新たな滞在拠点を新設。従来の知見を取り入れ、日本文化のストーリーを体験できる滞在型ウェルネスツーリズムを推進。



### 活動：地域と訪問者を結ぶ体験学習

沿線の小中一貫校を拠点とした、外資児童と地元住民による共同の田植えと取付。多世代が直接交わる相互交流の場を創出。

## 期待される効果とNEXT STEP

### コミュニティ

多世代が相互に学び合い、交流する関係人口の創出



### ブランド化

鉄道沿線全体が「生きた教育の場」として認知向上

### 地域経済

日帰り観光から「宿泊・滞在型観光」への転換による経済循環



### NEXT STEP

- 課題への整備に向けた自治体・地域住民との調整
- 多世代を対象としたモニタリング調査の実施と詳細な効果分析

## 本提案の学術的・実証的根拠



### 【文献調査】

課外授業事例、温泉地の再生プロセス、滝川の温泉保養地における多世代交流施策、シニア層のライフスタイル、乗換状況の評価分析。



### 【訪問調査による現地把握】

養老渓谷周辺、地蔵院遊覧地帯、万田野砂利山線跡、千葉県産産協会研究センター市原乳牛研究所、中村紙店等の実地調査と受け入れ態勢の把握。